

地の利と人の和で、最高格付を誇る

田口共選（和歌山県）のミカンとCDU化成

田口共同選果場を訪ねて……。

河見 泰成

前後、左右ミカン、ミカン、ミカン……

水田変じてミカン畑となる

大阪府の西南部を経て和歌山県を海岸沿いに南下すると、次第に内陸部から山が迫ってくる。そしてこれらの山には、“耕やして頂（いただき）に至る。”かのように、ピッシリと山頂までミカンが美事に植栽されているが、目を平坦部に転じると、つい最近までは水田であった地域にもミカン、ミカン、ミカン……である。

正に前後左右ミカンならざるはないといった現場を見ると、ミカン王国を誇る和歌山のミカン生産農家が、いかに激しい意欲を燃やしているか、その気はくが迫ってくるようにさえ感じられるのである。

最近わが国の果樹産業を取巻く内外の環境はきわめてきびしいものがあり、各生産県はこれに対処するために生産、流通の両面にわたって折角検討を重ねている。

和歌山県では果樹振興基本対策として

(1) 生産対策

- イ. 広域農密生産団地の形成促進
- ロ. 植栽および生産の計画化
- ハ. 改植および土壌改良の推進
- ニ. 近代的な果樹園経営の推進
- ホ. 果実の品質地帯区分と貯蔵庫の設置推進

(2) 流通対策

- イ. 選果場の統合大型化の推進
- ロ. 厳選主義と集約集中出荷
- ハ. 貯蔵比率の上昇を図る
- ニ. 海外市場への生果輸出の拡大と開拓
- ホ. 加工施設の整備拡充

を柱として、鋭意その実現が推進されている。

地域的にみると和歌山県の果樹生産は①伊都地域、②那賀地域、③和歌山市・海草地域、④有田地域、⑤日高地域、⑥紀南地域の6地域となるが、このうち有田地域は、有田川をはさみ古くから“有田ミカン”の産地として知られている。この辺一帯も昭和30年代後半のミカンブーム以来植栽面積が増えつづけ、現在 3,497 ha にも及んでいる。とくに水田転換による新植が著しく、最近10年間で水田の約80%に当たる870 ha がミカン園に変わっている。前述のように、ミカン、ミカン、ミカンの感を受けるのもこのためであろう。

しかしこの地域のミカン園は、大部分が急傾斜地のせまい階段畑、そのうえ土壌は献父古生層で土層が浅く、毎年干ばつに見舞われるという“干ばつ常襲地域”で、その被害は少なくない。

そのため昭和33年に有田市の保田地区を手はじめに、39年には宮原地区に、最近では有田川用水事業によって1,789haにもおよぶ灌水施設が完成し、着々とその成果があがっている。

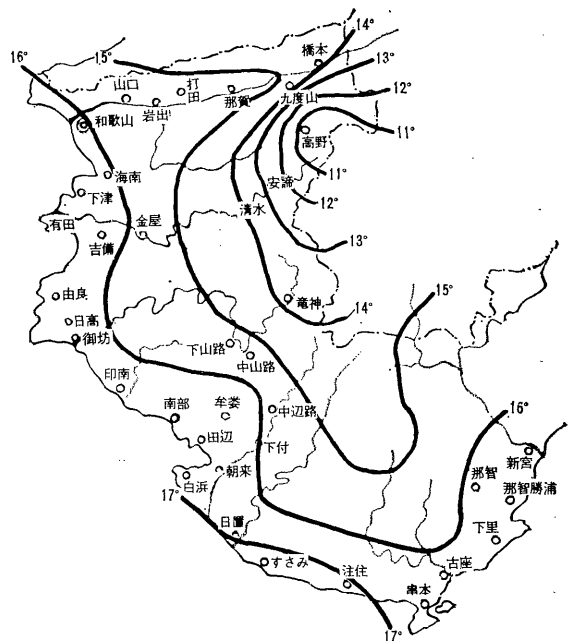
また、有田地方を中心とする急傾斜地柑きつ園で、スプリンクラーを単に灌水だけでなく、液肥の施用、防除作業など多目的に利用して成果をあげていることは既に知られている。

独自の生産、販売計画をたてながら

農協とも仲よく手を握って……。

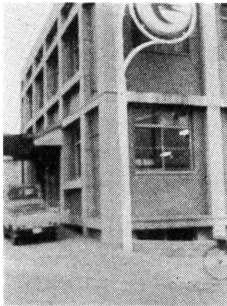
このように、施設化、広域化が進められている有田川地域にあって、天与の地の利と人の和を両輪とし、農協と仲よく手を握って、しかも独自の生産・販売体制をガッチリ固め、市場を自由に選択するゆとりを持つミカ

全年平均気温等値線図



ン生産組合がある。宮井和夫さん（有田郡吉備町田口）を会長とする田口共同選果組合＝“田口共選”である。

前述のように有田地区のミカン植栽面積3,497 haに対して、有田川農協管内（宮原，糸我，田殿，藤並，御霊所の5支所）の植栽面積は約1,700ha，そのうち田口共選を含む田殿支所管内が450haで，当の田口共選は約40haというから，決して大きいミカン産地ではない。



有田川農協田殿支所

ただ，ここで特筆したいこと
有田川農協田殿支所は，43名の組合員が常に有田川農業協同組合や同組合田殿支所と緊密に連携をとりながら過去，5，6年来“CDU化成682”一本槍でミカンを栽培し，その品質が卓抜なるが故に，市場仕切値も常に15kg当り200ないし300円高に格付けされているという，愉快な実績を持っていることである。

“田口共選”のことは1昨年あたりから耳にしてはいたが，好機に恵まれず，取材訪問は3年越しの宿願になっていたところ，ようやく筆者の願望がかなって，大阪営業所の柴田さんにお伴して現地を訪問することができた。去る2月22日のことである。



田殿支所前から見たミカン山

曾遊の地と云ったところで，1泊や2泊した土地ではどうということもあるまいに……と思われるが，やはり来てみると懐かしさが先に立つ。一つには話相手がいる気やすさもあるが，それだけでもないようだ。

有田川を渡った自動車は川の左岸を降りて，ほどなく吉備町の有田川農業協同組合に到く。営農部長の三枝さんは生憎お留守とのことで，和歌山県果実連果樹園芸技術員をも兼ねる広報課の箸尾（はしお）さんに挨拶したのち，更にここからほど近い同農協の田殿支所へ向う。

お天気男の筆者は今日も好天気に恵まれ，雲一つない中紀のミカン畑を前後左右に，遠く近くに眺めながらのドライブは実に気持ちが良い。

近くの平坦部に見えるのは“これは全部水田転換作ミカンです。”と箸尾さんが云われるように，稲作から転換したものだが，“よくもここまで…”と思われるくらい，ピッシリと植栽されている。別掲の写真はその一部分である。



見渡すかぎり水田転換ミカン畑

これらの水田転換ミカン畑を見下す一角に有田川農業協同組合の田殿支所があり，そこでわれわれの到着を待ちかねていた支所長の沢崎さんに迎えられて，吉備町田口にある

今日の訪問先である田口共同選果組合に向う。

組合員は43名おるけん

まるで親類みたいなもんな

“ここが田口共同選果場です。”と沢崎さんが云う。小じんまりした建物がひっそりと建っていて扉が1枚あいているが，中は物音もせぜうす暗い。さながら休日の事務所内を歩くような感じで，幾つか廊下を曲がった突当りが10畳くらいの室になっていて，そこに生産部長の森崎さん販売部長の生駒さん以下の面々がわれわれを待っていた。

“やあ，ようおいででした。”元気のいい声に迎えられたが，長方形の机をはさんで対座したことから，自然に座談会のようになって，面白い話を伺ったのだが，“どうかやってくれ…”と出されたポンカンも，筆者はメモをとるのに忙しく，手が出せなかったのは残念だった？



田殿支所前で（右・箸尾さん，左・芝田さん）

<参 考>

昭和47年度ミカン施肥基準（目標4トン）

有田川農業協同組合

肥料名	春肥(2月下旬～3月上旬)			夏肥(5月下旬～6月上旬)			秋肥(10月中～11月中)			備 考
	山畑	水転	ハッサク	山畑	水転	ハッサク	山畑	水転	ハッサク	
CDU燐加安 S 682	袋 5	袋 3.5	袋 4	袋 2	廃	袋 2.5	袋 3	袋 2	袋 4	200kg施すと必要量が入る
FTE入り燐加安 S 682	5	5.5	4	2	止	2.5	3	2	4	

以上のほか必要量の土壌改良剤を施す

森崎, 河見さん,
遠路わざわざご苦労
さまと云いたいとこ
やけど, ミカンが無
くなったときおいで
ても, どもならんわ

田口(博) 田口(和)
の場 宮崎 生駒 森崎

箸尾

テーブル

芝田 筆者 沢崎

な…。ことしは11月に来なはれ, それも奥さんと一緒
な。その頃やったらミカンというものがよう判るし, ゆ
っくり家に泊ってもろうて…。もっとも, その頃わしら
は戦場と同じで, ようお構いでけんけど…。アハ…”

本誌, ではお言葉にあまえて今秋はこちらにお邪魔さ
して戴くかも判りません。ところで田口共選は有田郡内
でも非常に特異な地位を占めておられる聞いております
が, 生産組合の概略をお願いします。

森崎 この選果場がでけるまでは, 個人営の選果場
が1カ所あっただけでしたが, 早いもので来年は田口共
選発足以来ちょうど20年になりますわ…。

沢崎 現在, 有田川農協管内には共同選果場が9, こ
のほか個人営の選果場が5カ所ありますが, 栽培, 経営
の合理化という面から行く行くは単一の大選果場制とい
う線が出て来ておる訳です。

生駒 うちの組合員は43名で植栽面積は約40haです。
せまい谷あいには, しかもミカンのほか米などもでけん所
やから, 組合員全部がちょうど親類みたようなもんでな
あ。いま, ここにはおらんけど宮井(和夫)さんを会長
に, 組合員の約半数が何がしかの役についてるのです。
会長1, 副会長は森崎さんとわし…つまり生産, 販売の
両部長が就任することになっており, このほか会計主任
とか仕切主任や庶務主任とか, そしてこれらについてそ
れぞれ委員がおるので…。任期は1年ということやけど,
再選を妨げんということやで, 何年も続くという場
合もありますわな?

本誌 それでは, こちらの機構上の, 或は経営上の特
徴といったものについて…。

森崎 われわれは農協の組合員ですから, 肥料その他
の生産資材等の購買は農協を通じますし, 生産の指導な
ども現実に農協の指
導を受ける。けど一
面, 田口共選として
の独自の生産計画を
持ち, 長年, 市場を
開拓してきた関係か
ら, これまた独自の
販売ルートを持って
おるというのが, わ



田口共選前で (右から芝田, 沢崎支所長, 箸尾さん)

れわれの立場であり, 田口共選の特質という訳ですわ
あな。

本誌 そうすると両系統と手を握っている訳ですね?

森崎 そういうことになりましょう。しかし, そこに
こそ, この田口共選のミカンの特質を生かす道があると
云うてもえゝと思います。

ミカン栽培と肥料の選択

無機と有機とで, 格別の差はない

本誌 こちらでは早くからCDU化成でミカンを栽培
されておられるそうですが…。この肥料を使ってみてど
うお考えですか?

森崎 そうやなあ, もう5年, いや6年になるかなあ
(生駒さんや箸尾さんらに向って)とにかくチッソはミ
カンの品質向上(色沢, 食味)に欠かせん要素で, つい



田口共選の組合員の皆さん 右から沢崎, 森崎,
宮崎, 生駒, の場, 田口(和), 田口(博), 箸尾さん

最近まで有機でなければあかんように云われとったです
わ。しかし, では有機と無機(化成肥料)とで, どれだ
け違うのかというと, ハッキリしたデータは無いの
ですわ。爾来, CDU S 682 を使うとる訳です。Nに
換算して10a 当り25~26kgになりましょうか。もっとも
今年は, 県の方針に添いまして22kg程度施用することと
し, このほかに骨粉を20貫施肥することになりました。

(昭和47年の有田川農業協同組合のCDU S 682 と燐
硝安加里 680 (FTF入り)の施肥基準は別表参照。)

このほかに, 土壤保全を目的として土壤改良剤や, 溶
燐を施す必要があるでしょう。

わしの担当一生産部としては, チッソをできるだけ県

の適正基準量にマッチするように減量して行くこと、摘果を十分にやるこのほか、黒点病など病害虫の一斉防除の徹底を生産の面での3本の柱としておるのです。

生駒 生産部に3本の柱があるとすれば、販売部にも食味の向上、選果場へ搬入前における家庭選別の徹底（加工品向けと市場向け）と、これらに見合う生産技術の検討（品種の統一や計画的改植など）が重要な問題ですわ。

この谷ではミカン以外は栽培しておらん、したがって水田転換ミカンのように低品位のものが市場に出回らんという天与の利点のほか、これまで“田口共選”の市価を保持してきた大きな裏付けとしての“家庭選別”の徹底ということを見逃す訳に行かんのですわ。

その上での、選果場への持込みとなるのですから、秀・優・良・並・外の5階級に格付けされておるけれど、同じ秀でも他産地の“秀”と実質的な違いがあり、ここで“優”のものやったら、他産地では“秀”に格付けされるくらいの違いがあるというのですわ。具体的にいうたら15kg入りダンボール1函当り200円から300円の格差があるのんも、こんな関係かも知れんです。

和歌山のミカンの特質は、土層の浅い秩父古生層に植栽されていることのほか、試験場の山村先生からお聞きになったと思いますが、年間を通じ平均16°C附近のもので、年内採りしたミカンが一番おいしいということですよ。つまり、ここはそういうミカンです。

本誌 現在、選果場は動いておりませんが、稼働日数は年間を通じてどのくらいになりますか。

生駒 大して効率的だとは云えんけど、10月中旬から年内いっぱい、また年を越して1月から5月まではネーブルやハツサクなどの雑柑の選果があるので、まあまあということでしょう。

本誌 ところで今年のミカンはどうでしょうか？

箸野 43年の大暴落が記録的であったほかは、大体まあまあということですが、ことしは相当の豊作が予想される、生産者泣かせの年になるのではないですか？その代り消費者の皆さんには良い年になりそうです。

本誌 話は変わりますが、後継者問題をめぐって親子との間に、いわゆる“断絶”と称するものがあるのかどうかその辺をどうぞ…。

田口(博) あるね。わしにはやっぱり都会生活が魅力的やがなあ。

本誌 ほう、それはどんな意味で？

田口(博) ミカンづくりを割が悪いとは思わんけどよー、たとえば“休日”も農村に設けられるようになったけど、月に2回だというのに、お勤めなら月3回。土曜日は半休やし、祝祭日も休みになる。わしらの場合、仮

に今日が休みだーというのに、いざ休もうとすると、まず家族たちの顔色を見ねばならん…でねえ。わしらの生活はまだ本当は解放されたとは云えんと思うけど？

生駒 わしの息子は昨年農業高校を出たんやけど、当然のことながら“卒業したらどうする？”と訊いたところ、“今のところではミカン栽培はご免や”とぬかしおったね。（爆笑）では、どうする見だと重ねて訊ねたところ、“今のところでは嫌だが”他のミカン産地や農業一般がどんな状況にあるのか、視察してきたい。”こう云うたのですわ。妙な気がせんでもないけどスジは通っておるのんで、それも良からうーと承知してやりました。（一同大きく背づく。）

話では一年ぐらいーということやったので、今ごろはどこをどう歩いとるのんかと考えておるとね。3月も経たんうちに九州から手紙が来ました。どう書いてあるかというたら、“これまであちこち視て回ったけど、やっぱりうちのミカンづくりがええということが判った”というののですわ。（いかにも嬉しそうに…。）それからはずーと腰を据えて、わしと一緒にミカンと取っ組んどりますわ。

本誌 田口さん、生駒さんのような話もあるけど、やっぱり都会でのサラリーマン生活に魅力を感じますか？

田口(博) わしはやっぱりその方がええと思う。（きっぱりと。）

森崎 若い人達のことではないけど…。43年にミカンが大暴落したわなあ。あのとき、ミカンづくりに見限りをつけて、出稼ぎに行った人達がいったけど、“やっぱりミカンづくりがええ”云うてほどなく帰ってきたこともありましたわ。

田口(博)さんと生駒ジュニアの考え方と、きわめて対照的であるが、これは生き甲斐をどこに認めるかの違いで、どっちが良い悪いという問題ではない。

が、どちらの見方も農村の現実を衝きとめている点で、筆者には非常に興味深く耳を傾けたことである。

----- 寒暖恒(つね)ならずといっても、**あ**と**が**きとしは東京では耳がちぎれるほどに寒い日はなくて、拙宅の梅の花も、確かに例年より20日も早く咲きはじめ、3月初旬から既に散りはじめています。例年だと3月終りまでは咲いているものでしたが。

とに角、この雑誌が出る頃には、何と云っても春たけなわということになるでしょう。

訂正 1月特集号の巻末に挿入の広告中、鹿児島出張所の電話番号は

(0992) 26-7667 と訂正致します。(K生)